

ブドウやリンゴの着色促進技術の開発

1 目的

県内産ブドウやリンゴ等に発生している高温による着色不良を回避するため、LEDを用いた着色促進技術を開発する。

2 研究成果

■LEDテープライトを使ったブドウの着色促進技術開発

樹上の赤色系ブドウ「コトピー」の果房に、着色開始期から収穫日まで期間中、午後9時から午前4時までの7時間、LEDテープライトで赤色光(630nm)を近接照射した。その結果、照射しない場合と比べて、果粒の赤く着色した面積の増加や着色指数(色の濃さ)の向上が認められた。

■据え置き型LEDライトを使ったリンゴの着色促進技術開発

樹上の赤色系リンゴ「つがる」の果実に、着色開始期から収穫日まで期間中、午後6時から午前9時までの15時間、据え置き型LEDライトで青色光(470nm)を照射した。その結果、達観で果実の赤く着色した面積が増加する傾向が見られた。

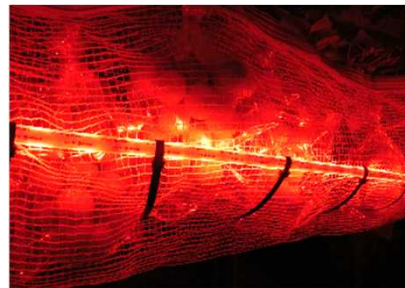


着色不良のリンゴ果実



着色不良のブドウ果房

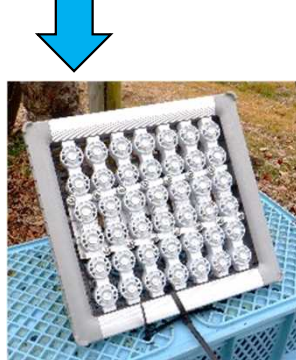
赤色系ブドウの
収穫前に果房へ
赤色光を照射



LEDテープライトの近接照射



赤色系リンゴの収穫前に
果実へ青色光を照射



据え置き型LEDライト



着色不良果の減少により
商品化率向上

